

事業計画書(その1)

① 団体の目的 *定款, 規約, 会則等に定めている目的を, そのまま転記してください。

被災者・被災地の救援・復旧活動はもとより、効果的な災害ボランティア活動が行えるよう災害ボランティアコーディネーターの養成及び支援、災害ボランティアの活動を最大限に活かすことのできる仕組みの構築・維持に資する。

②事業の分野

☐保健, 医療又は福祉の増進 ☐社会教育の推進 ☒まちづくりの推進
☐観光の振興 ☐農山漁村又は中山間地域の振興 ☐学術, 文化, 芸術又はスポーツの振興
☐環境の保全 ☒災害救援 ☒地域安全 ☐人権の擁護又は平和の推進 ☐国際協力
☐男女共同参画社会の形成の促進 ☐子どもの健全育成 ☐情報化社会の発展
☐科学技術及び学術の推進 ☐経済活動の活性化 ☐職業能力の開発及び雇用機会の創出
☐消費者保護 ☐団体の運営又は活動に関する連絡, 助言又は援助

② 事業の概要 *事業の全体像を簡潔に記入してください。

出前講座と炊き出し訓練で防災(減災)を学ぶ。また
実存する地震の現場を(野島断層記念館)視察して理解を深めて頂く

④社会的背景と解決しなければならない課題

*提案するに至った社会的背景や市民ニーズ等は何ですか。また解決しなければならない課題は何ですか。

3年間取り組んできた「地域の防災力を高めよう」のテーマから、たくさんの人に防災活動への理解を得ました。(アンケートから)しかし、まだたくさんの問題点も見えてきました。

晴れの国、岡山は災害のない県・・・誤解されている人は多くいます。

危険な状態になっても指示があるまで動かない。

避難所に行ったら何でもある。

この様なことから、まだいるであろう!たくさんの人達に出前講座を通して現状を理解して頂く、と共にしっかりした、防災対策を推し進めて行きます。

⑤受益者の範囲 *提案する事業の対象範囲を具体的に記入してください。

倉敷市民の全てのみなさん 特に災害弱者となる高齢者には理解させたい

⑥事業の成果 *④の課題に対して, 事業を実施することで得られる成果とは何ですか。

避難の状況判断が、自らでき、行動できるタイミングを理解させる

避難準備は、日頃からしておくように教え、「イザッという時は率先して行動出来る」こと…自助が出来る人の育成

⑦事業の目標

*⑥の成果を測る目安です。想定する結果より少し高いレベルで設定してください。また、目標の進捗状況を市の指定するブログに定期的に投稿していただきます。できるだけ数値やパーセントを用いてください。

その都度のアンケートの集計から・・・

判断ポイントの理解度を 80%以上とする。

1 年間での自主防災組織率を 5%UP する。

事業計画書(その2)

⑧事業の詳細

*実施時期, 場所, 対象者, 内容, 特徴や重点事項など, できるだけ内容を明確にしてください。

- 1.今までと同様に市内5ブロック(玉島、船穂、児島、倉敷、水島)を主として依頼のあった地域を優先し、小学校の体育館を活用しつつ、巡回し出前講座とHUGと炊き出しの実技で無理なく取り組んで関心を深めていく。

講座は5月から始め 土、日曜日のいずれかの休みを活用する。

講座の時間 9時から12時の3時間で納める。

講座の内容 1時間は防災危機管理室による「防災に関する出前講座」。
1.5時間を災害ボランティア連絡会による「炊き出しの実習、試食」で防災への興味を引かせて行きます。(飽きさせない)
・ どのようにして、わが身を守るのか? などのフリーディスカッションをする。

対象者 市内の一般市民のみなさん 各回毎 70名

2.市外へ防災視察

自分たちの地域の防災に対する取り組み方を見つめ直す機会を与え、減災へ繋げて行ける人をたくさん育てる。

淡路島の野島断層記念館の視察(現実を見る)

⑨受益者負担 ※団体の財源確保のため、可能な限り参加費等を徴収してください。

*参加費や受講料を一般の参加者から徴収しますか。該当するものを丸で囲んでください。

☒ 徴収する ・ ☐ 徴収しない

*「徴収しない」とした場合、その理由を記入してください。

事業計画書(その3)

⑩事業の見通し *2年後, 3年後といった将来, 事業をどのように展開させていきますか。

色々な地区からの講座依頼が出てきています。

隣の地区で開催したのに、「自分の地区は何も出来ていない」という良い意味での連鎖反応が少しずつではありますが出てきました。

この様な関心をもっと広めることで、相乗効果が期待できて来る。

⑪団体の能力の活用

*団体の持つ能力や特色を, 課題の解決にどう活かしていきますか。

いろいろな被災地に行き、その地域の人から得た情報や経験を蓄積しています。

現実味のある体験談などから、分り易く説明した中から理解を得られる事と思います。

講座については、防災危機管理室との連携を継続し行きます。

⑫他団体等との協力

*他団体等と協力して事業を行う場合は, その団体名や役割を記入してください。

倉敷市ボランティア協議会との連携を取り、参加者の要請依頼をします。

地区自主防災会、コミュニティへも、参加者の動員要請する。

社会福祉協議会からの受付などの依頼や動員もお願いしています。

⑬行政との協働 ※自主事業部門の団体は記入不要

主となる部署名 () 主部署の同意 (あり ・ なし)

その他の部署名 (,)

協働する部署との協議

月 日 (内容 :)

月 日 (内容 :)

月 日 (内容 :)

協働する部署の役割

予算書

(収入の部)

(単位：円)

項 目	金 額	内 容
受益者負担 (参加費, 受講料など)	27. 0 0 0	参加者一人より 100 円徴収(不足分は会費で)
会費からの繰入金		
そ の 他		
市補助金	2 3 6.0 0 0	
合 計	2 6 3.0 0 0	

(支出の部)

(単位：円)

区 分	項 目	金 額	内 容
経費① (対象経費)	人件費(団体会員に支払うもの, 交通費を含む)		
	人件費(団体外部に支払うアルバイト代等)		
	謝 金 (講師等に支払うもの)		
	旅費交通費 (講師等に支払うもの)		
	消耗品費	5 1. 0 0 0	猫袋 20.140 円 米 12.000 円など
	印刷製本費	6. 0 0 0	コピー代
	通信運搬費	9. 0 0 0	ハガキ 5.200 円 切手 4.100 円
	保険料	1 2. 0 0 0	行事保険 2800×4 視察研修 1400 円
	使用料, 賃借料	1 5. 0 0 0	プロパン代 5.000 円 配達料 10.000 円
	委託料	1 7 0. 0 0 0	大型バス一台
	小計 ①	2 6 3.0 0 0	
経費② (対象外経費)	報償費・人件費		
	食糧費		
	その他		
	小計 ②		
合 計		2 6 3. 0 0 0	

(記入上の注意)

- ※ 団体会員に人件費及び交通費を支払う場合は、申込み前に事務局に相談してください。
- ※ 実施可能な経費、内容に見合う経費で計画してください。過大な経費は避けてください。
- ※ 内容欄には、単価・数量等の内訳を記入してください。(別紙添付も可)
- ※ 事業実施のために直接必要な経費だけ計上してください。団体の運営経費は対象外です。
- ※ 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。